



グルージャ盛岡 サポーターズカンファレンス 議事録

■開催日

2018年1月13日(土) 10:00~12:00

■場所

パルコタウン 3F 会議室 (〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1丁目1-82号)

■出席者

(株)いわてアスリートクラブ

代表取締役社長	菊池 賢
取締役 強化部長	中村 学
取締役 営業・事業本部長兼ホームタウンリーダー	高橋 理

■目次

- ・2017シーズンの活動のご報告
- ・事前質問に対する回答
- ・2018シーズンについて
- ・質疑応答

【開会の挨拶：代表取締役社長 菊池】

皆様新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。本日はかなりお寒い中たくさんの皆様にお集まりいただきました。ありがとうございます。昨シーズンは、菊池利三監督を迎えて、リスタートを掲げ、スタートしたシーズンでありましたが、ホーム・アウェイともに皆様の力強いご支援と温かい熱い応援によりまして、一年を戦わせていただいたと思っております。誠にありがとうございます。また、昨年は県内32市町村のホームタウンの承認をいただきました。名実ともに岩手一岩というスローガンを実現して、オール岩手で応援してもらえるような、そんなチームに、という最初の年だったと思っております。また、クラブのマスコット「キヅール」もクラウドファンディングで多くの皆様のご支援によって、実現することができました。年末もNHK紅白の前の番組に生出演をさせていただいたり、非常に大きな反響をいただいております。この時期に皆様にお集まりいただきましたのは、19日に新加入選手記者会見。20日に必勝祈願・新体制発表会。その後、22日より練習開始。それからキャンプという流れで始動していきます。その前に皆様と建設的な意見交換をさせていただき、2018シーズン、より良いクラブを作っていくという思いを込めてお集まりいただきました。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。



■2017 年のご報告

【高橋取締役】

それでは早速、2017 シーズンの活動報告をさせていただきます。始めにトップチーム、アカデミー関連のご報告となりますので、中村取締役の方からご報告いたします。

【中村取締役】

2017 シーズン、菊池監督を招聘させていただきまして、リスタートというスローガンを掲げ、シーズンを迎えました。実質、2016 シーズンに私どもの方で「グルージャスタイル」という形で攻撃的かつショートパスを軸にサッカースタイルの構築をしました。2017 シーズンは失点を少なく、より攻撃的なサッカーを心がけ、選手・スタッフ・チーム一岩となって挑戦していこうという形でスタートしましたが、実際、見ての通りうまく機能せず、順位も7勝8分17敗という形でクラブ史上最低の記録となりました。これに関しては、チームを統括している私の責任でもあります。今シーズンも会社から強化として再任という形になり、この失敗を2018 シーズンは二度と繰り返さない、そして覚悟を持って2018 シーズンを迎えたいと思っております。続けてアカデミーのご報告をさせていただきます。

●ジュニア

グルージャとして初めてバーモンドカップの全国大会に出場することができました。これは8人制のサッカーではなく5人制のフットサルということで、優勝ではなく準優勝という形ではありましたが、初めて全国大会に出場することができました。初戦でサンフレッチェ広島と戦いまして、勝ちましたが、2戦目、3戦目と大敗をしてしまいました。ただこちらに関しましては、スタッフからの報告書にもあり、本当に子どもたちが精一杯今の技術を駆使して戦った結果です。本当に実りある大会で、スタッフ・保護者の方々にもご協力を賜りながら進められた大会でした。8人制の大会と同時進行でこのフットサルの方も行っていましたので、時期的な部分も含めて今後2連覇を目指してやっていければと思います。その他全日本少年大会。一年の中で一番目標に掲げて頂点を目指そうという形ではありましたが、準優勝という形になりました。皆様ご存知かと思いますが、グルージャとして決勝進出した4回全て敗退ということで、2018 シーズンはこのタイトルを是が非でも取れるように頑張っていきたいと思っております。

●ジュニアユース

みちのくリーグ北ブロックというところで、上位進出および、最低限残留という目標を設定し、5位という形で、目標はクリアいたしました。高円宮杯は今まで私がジュニアユースの監督をしていたときのベスト8が最高位だったのですが、スタッフ・選手が頑張り、ベスト4。これはものすごく輝かしいことだと思います。あと一勝、二勝すれば全国の大会に東北の枠で出るところだったのですが、率直にここまでよく頑張った。そこに行く過程の中でブレずにやり続けたということが、ジュニアユースのスタッフ、子どもたちの力強さが垣間見れたということだと思います。



●ユース

一昨年から強化のところに着手し、ジュニアユースからの昇格、県外からの招聘という形で少しずつ実りのある形となっています。今シーズンに関しては、ジュニアユースからの昇格が十数名ということで、二年生・一年生が主体のチームではありましたが、少ない三年生が先頭になって頑張って、i.LEAGUE DivisionⅢを優勝し、来季から i.LEAGUE DivisionⅡと形で着実に上の階段を登っていつている状態となります。以上が、アカデミーとトップチームの2017シーズンのご報告となります。

【高橋取締役】

続きまして、クラブの方からお話させていただきます。2017シーズンは、遠藤渡会長始め、菊池賢社長、常務取締役として宮野聡氏など、たくさんの方々のお力をお借りしまして、2016年度皆さまがご承知の通り、不祥事があり、たくさんのご迷惑をおかけした部分をまずは払拭していこうということでフロントスタッフもリスタートいたしました。クラブの黒字化を第一として、取り組んでいき、まだまだではありますが、ある一定の成果も上げられたかと思っております。その中で初の北上開催、ホームタウンを岩手県全域に広げるなど、新たな試みも行って参りました。

2018シーズンについてですが、クラブスローガンは変わらず「一岩」、チームスローガンにつきましては、1月19日の新加入選手記者会見の中での発表となりますので、ここでの発表は控えさせていただきます。クラブ一丸となり、昨シーズンのチームスローガンに掲げた「RESTART」という言葉を忘れずに、フロントスタッフは県内を駆け回りたと思っています。トップチームに関しては、この後、取締役・強化部長の中村より詳しくお話させていただきます。クラブとしては、大きな課題としてある「集客」に焦点を合わせ、平均観客数二千人を目指し、活動してまいります。経営面に関しては、黒字化は当然のこと、昨シーズン築いた土台への上積みをし、皆様に安心していただけるクラブ経営を目指します。スポーツを通して、「岩手に元気を」「子どもたちに夢を」の精神を忘れずに邁進してまいります。よろしく願いいたします。簡単ではありますが、2017シーズン、2018シーズンについてのご報告とさせていただきます。この後の質疑応答や事前質問にご回答させていただきますので、よろしく願いいたします。

■事前質問への回答（経営・ホームゲーム運営関連）

●宮野常務の今後の活動について（辞任の経緯、今後の関わり方）

【菊池社長】

宮野常務の今後についてですが、関わり方も含めてお話させていただきます。昨年はフィールドマネージメント様という会社様からの出向という形で宮野常務には取締役として経営に携わって頂いておりました。その中で、2018年はフィールドマネージメント様のご本業である経営コンサルに戻ることにになりました。しかし、宮野氏については取締役という形ではありませんが、フィールドマネージメントからの出向ではなく、一個人として社長補佐という形で、今後



も2週間に一回程度は盛岡に定期的に来て、引き続き経営に関するサポートをいただくということでした承りいただいております。今後も引き続き宮野氏には関わっていただき、皆様ともお会いする機会もあるかと思いますが、いわてアスリートクラブ・グルージャ盛岡のために、協力をいただきます。また、東京でも営業活動あるいは、グルージャ盛岡に関する様々な動きをしていただきながら、盛岡に常勤という形ではありませんが、引き続きご協力いただくということでご理解いただければと思います。

●神川明彦氏との訴訟の進捗状況について

【菊池社長】

神川前監督との件については、引き続き弁護士に依頼しております。まだ係争中であり、確定していませんので、今現在皆様にご報告できることはございません。弁護士にお願いし、粛々と進めさせていただいているという現状でございます。

●クラブの財務状況について・以前のクラブ経営について・どのような覚悟をもっているのか

【菊池社長】

クラブの財務状況については、一昨年的大幅なマイナスの中で資金投入をして、クラブの危機を回避したところからのスタートでございました。2016年の決算につきましては大幅な赤字を計上し、2017年については現状1月の決算でありますので、まだ締まっておりませんが、黒字を見込めるというところに来ております。一つ一つ段階を踏みながら健全経営を目指していくというかたちで進んできております。また、以前のクラブ経営についてですが、常勤の取締役が一人体制でしたので、相互牽制をする体制ができていなかったと思っております。新体制になってからは複数の役員が相互牽制しながら、それぞれの業務を確認し合い、ガバナンスを高めた形で経営にあたっております。まだまだ途中ではございますけれども、さらに経営の安定、ガバナンス強化に努めていきたいと思っております。どのような覚悟を持って経営にあたっているかということですが、強い覚悟を持って、先ほども申し上げましたが複数の役員で複数の目によって、経営管理、あるいは選手の強化を進めて、グルージャ盛岡を将来J2に昇格できるようなクラブにするという覚悟を持って取り組んでございます。今後も皆様のご協力・応援が不可欠となりますので、なお一層の応援をお願いしたいと思います。

●ホームタウン全県拡大について（陸前高田市の件、川崎フロンターレとのコラボについて）

【高橋取締役】

昨年度、一年間をかけまして、全33市町村を対象に各市町村長の方々に趣旨説明をし、ご理解をいただき、32市町村をホームタウンとすることができました。ホームタウンの意義といたしましては、本来であればホームゲームを開催できるという大きなメリットがございますが、岩手県の場合、ホームタウンになったからとはいえ、実際ホームゲームが出来るというのは今の段階では、北上市と盛岡市のみとなっております。その他の市町村については、目に見えた形でホームタウンになったから何が変わるのかという厳しいご意見も頂戴いたしました。その中



で、私たちはクラブの理念でもある「岩手に元気を」、「子どもたちに夢を」という思いのもと、より目に見える形での活動をしていくということで一つ一つご理解を頂いていくという覚悟で、ホームタウンを拡大させていただきました。昨年は、大小合わせ 200 回近くのサッカー教室・イベントに参加させていただきました。その中で大きな課題も目に見えて出てきました。一つは、地域の偏りです。訪問できている地域、できていない地域という偏りが見られました。2018 シーズンは、全市町村にしっかり足を運んでいきたいと思っております。陸前高田市を含む 33 市町村を回らせていただいた中で、地域密着型のクラブとして、より一層邁進していきたいと思っております。

皆様から数多く質問を頂いた、陸前高田市の件ですが、何度も足を運び、書面等でもやり取りをさせていただきました。その中で、陸前高田市の市長様の方から、陸前高田市というのは皆様ご存知の通り、復興ということで震災直後から川崎フロンターレ様とともに頑張ってきたという部分があり、陸前高田市民の中でサポーターズを作ったばかりというお話もいただきました。どうしてもタイミング的に、2017 シーズンは保留という形でご理解をいただけないかとお願いされました。私達はこれからも判子を押した押さないではなく、陸前高田市の方々との交流を変えない形で進めていき、然るべくタイミングでホームタウンに加わっていただくよう、2018 シーズンも活動していきますのでご理解の程よろしくお願い致します。

川崎フロンターレ様に関しましては、陸前高田市でのサッカー教室を予定しております。川崎フロンターレ様からもグルージャ盛岡とコラボした形で進めていきたいというお話も頂いておりますので、しっかり実現できるようクラブとして頑張って活動していきたいと思っております。

キッズが登場したタイミングで、グッズを弊社としても作りたかったのですが、昨年度は黒字化が第一ということもありまして、クラブライセンスの関係にも繋がる部分もあり、なかなか作ることに踏み切れなかったのが現実です。そこで限定として、川崎フロンターレ様からの有難いご提案により、お力をお借りすることとなりました。ご理解していただければと思います。

●キッズの今後のグッズ展開について

【高橋取締役】

Jリーグの場合は原則、「Jリーグエンタープライズ」というところを通して制作となります。この場合、発注ロット数が非常に大きいので、私たちのような地方クラブであり、まだ予算がしっかりしていないクラブにとっては、在庫として大きなリスクが出てしまうということもあり、なかなかいろいろ作っていくことに踏み切れないのが実情です。昨年度は、フラッグ等を初期投資で作りましたが、今後は地元で根付くもの等いろいろ話し合いをして、在庫を持たないような形も含め考えておりましたので、もう少々お時間をいただければと思います。



目標としては、3月21日のホーム開幕戦に間に合うよう進めておりますので、もう少々お待ちいただければと思います。

●フロントの強化について現状を教えてください

【高橋取締役】

三年間運営として頑張ってもらった、渡部部長が11月を持って退社いたしました。渡部部長に関しては、Jリーグでの経験も長いということで東北地域リーグから飛び級で昇格し、右も左も分からない状況の中、多大な貢献をしていただきました。先ほどお話した宮野常務、渡部部長が抜けた部分に関して、宮野常務に関して形は変わりますが、私たちとともに先頭を切っていただきます。渡部部長の代わりとして、2月から地域リーグにて経験値が高く、やる気のある女性の方が運営スタッフとして来てくれることが決まっております。しかし、Jリーグ経験がない部分は本人も非常に不安に思っておりますので、クラブ一岩となり、全員でサポートしながら、より良い運営ができるよう努めてまいります。

変わらず残るフロントスタッフに関してですが、ご指摘をいただいている点、至らない点、一つ一つ皆さまのご意見に耳を傾け、改善していけるよう努めてまいります。目に見える形で改善改革をしていきますので、今後ともよろしく願いいたします。

●チームスローガン「RESTART」を掲げ、1シーズンでクラブの基盤構築を目指すとのことでしたが、これは十分に達成されたか。

【菊池社長】

先ほどもお話させていただきましたが、2016年の大きな反省をもとに、2017年に基盤を作るということでやらせていただきました。現状で、黒字化を図れる見込みというところまで来ておりますので、最低限の基盤を作り上げられたのではないかと考えております。大きなマイナスからのスタートでありましたので、ここがスタートラインとなり、前に進むところという風に認識しております。高い理想を持って現状に満足すること無くクラブの健全な運営・経営を考え、また、一つ一つ夢を皆様にもってもらえるようなクラブ経営にしていきたいと考えております。一年ごとにレベルを上げていきたいと考えております。今後も積み重ねてまいりますので、皆様よろしく願いいたします。

●北上開催について

【高橋取締役】

こちらもたくさんのご質問・ご意見を頂戴いたしました。昨年の初開催ということで、目標入場者数を大きく15,000名と掲げさせていただきスタートしました。まだまだ私たちの力不足もありましたが、3,590名というJリーグ昇格以降過去最高の入場者数を記録することができました。開催に至るまで検討に相当の時間がかかり、開催決定後の準備期間がわずか一ヶ月の間ではありましたが、北上市役所始め、北上市サッカー協会、地元の小中高生、その他数多くの競技団体の方々からお力をお借りしました。この部分に関しては、目に見えない部分ではあ



りますが、このようなつながりを大きく持てたことがクラブとしても大きな財産となったと認識しております。今シーズンも開催の方向で調整をしております。その中で北上市の方々とは昨年、試合が終わった後から複数回の話し合い、会議を持たせていただいております。今シーズンもしっかりとした運営・開催ができるよう邁進していきたいと思っております。

一度開催した上で、運営上の問題が出てきました。その中で、避雷針とベンチといった問題があり、こちらに関しては、行政の方と何度となく話し合いをし、改善・解決できるよう進めております。然るべきタイミングでご報告させていただければと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

また、集客に対する問題等は、クラブとしてもまだまだやれることがあった、北上市の方からいろいろなご提案をいただいておりますので、今年度も大きな目標を掲げ、進めていきたいと思っております。

2018シーズンの試合数に関しては、まずは1試合を考えております。

●いわぎんスタジアム改修、新スタジアム建設に向けての説明

【高橋取締役】

現在の進捗状況をご報告致します。スタジアムの改修は皆様ご存知の通り、駐車場の問題（デコボコ、ぬかるみ等）、照明設備、屋根、ゴール裏の通路が狭い等、当面の目標であります、J2仕様のスタジアムへの改修を目標に、まだ皆様には目に見えた形では届いていないかと思っておりますが、幾度となく行政の方ともお話を進めているところであります。正直なことを申し上げます、なかなか前向きなお答えをいただけていないのが現状です。しかし、私達グルージャ盛岡としてもスタジアム改修及び新スタジアム建設に向けて、より目に見える形で発信していくことはクラブとしても決定事項としてなっております。つきましては、今後皆様ご存知の通りブラウブリッツ秋田様やアスルクラロ沼津様のように署名活動を行うことも視野に入れております。その際には、ぜひお力とお名前をお貸ししていただければと思っております。

スタジアムの問題につきましては、多少余談にはなりますが、2019年にはラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック、それ以降は2021年から野球場建設が始まり、ここ5年間くらは非常に大きな問題を抱えております。こういった中で、行政の方からもご連絡いただいておりますが、2019年に関しては、いわぎんスタジアムがほぼほぼクローズになるのではないかというお話も頂いております。2020年は、カナダ7人制のキャンプ地として決定したため、最低3ヶ月はクローズになるのではないかというお話も現段階で頂いております。2021年以降、野球場建設となりますと、試合開催は出来ませんが、駐車場の閉鎖という問題が出て参ります。そうなった場合、行政の方といち早く話し合いをし、皆様にご理解をいただきながら、しっかりと運営をするクラブにならなければと思っております。



● ボランティア・サポーターの方々との関係の構築について

【高橋取締役】

ボランティアの皆様、そしてサポーターの皆様、いつもクラブを支えていただきありがとうございます。私どもの力の足りなさにより、ボランティアの慢性的な人数不足により、非常にご迷惑をおかけしております。こちらに関しては、まずはボランティアに来ていただいている方々と定期的な集まりを持ち、ご意見をいただき、一つ一つ解決していきたいと思っております。ここでお約束できることは定期的な集まりを持つということです。こちらに関しては必ず実行していきたいと思っております。試合運営に関しては岩手県サッカー協会からも厳しいご意見を頂戴しております。こちらに関しては、私たちは東北地域リーグから飛び級で昇格し、全国規模の試合運営の経験がないということもあり、2014 シーズンは二ヶ月間しか準備がない中、まずはこうやってみようということでスタートしました。ただ、ここからクラブとして変わっていない部分を何度となく打ち合わせをしていながら、人の配置も含め、検討しながら進めたいと思っておりますので、ボランティアの皆様のお力もお借りしながら、より良い運営をしていきたいと思っております。

サポーターの方々に関してもどんな時でも背中を押していただき、本当に感謝しております。今回頂いた質問の中でも試合会場の雰囲気作りやイベントのあり方についてたくさんのご意見を頂戴いたしました。J リーグに昇格し、四年間やってきたことで、わかったこと、難しいこと、まだまだ時間のかかるところ等がございます。クラブとしてしっかりすみ分けをし、一つ一つ乗り越えていければと思っております。その結果が、誰が来ても楽しいスタジアムづくりへとつながっていくと思っております。

観戦マナーについても多数いただきました。一番多かったのが傘の使用について認めてほしいというお声を多数いただきました。昨シーズンは試合により OK というかたちで運営をしてまいりましたが、全試合 OK という形は J リーグとして NG ということになっておりますので、ご理解下さい。

● いわき FC との関わりについて

【高橋取締役】

2017 シーズン、2018 シーズンともに、キャンプ地として、いわき市の方へお邪魔させていただきました。この件に関しては、アンダーアーマー様とのサプライヤー契約の特権ともいえるべきものでもあり、いわき FC 様のお力をお借りし、日本最高レベルの環境でキャンプできることに感謝しております。昨年度はシーズン中断の中、プレシーズンマッチをいわき FC 様とさせていただきました。同じ被災県として、志していく部分に関しては同じ思いがあります。今シーズン以降も両チームにとって、Win-Win の関係を構築できるよう考えていきます。今後、キャンプの日程も発表になるかと思っておりますので、ぜひ足を運んでいただき選手にご声援を送っていただければと思っております。足を運んでいただければ、皆様の夢も広がる場所だと信じており



ます。そして、必ずや岩手・盛岡にもあのような施設があればと思うと思います。岩手、盛岡にもあのような施設を作ることが私たちの夢でもあります。是非ご覧になっていただければと思います。

●イベントについて（他団体：みちのくプロレス等との連携、前座試合の企画について）・地元 の大学・高校との関わり

【高橋取締役】

試合当日のイベントについてもたくさんのご意見を頂戴いたしました。まずは、みちのくプロレスとの連携イベントに関しては、一度開催の方向で動いたのですが、最終的に日程が合わず開催することができなかつた事例もございます。今後も地域を支えるスポーツ団体組織でもありコラボ企画を実現できるよう努めてまいります。福島ユナイテッドFC様からもお話を聞きながら、進めさせていただければと思っております。

前座試合の企画についてですが、去年は TOSHIMI Friends、一去年は元日本代表を集めた teamJARN にお越しいただき、県選抜の方々等と試合をしていただきました。こちらの件に関しては、スタジアムのルールもあり、実を申しますとかなりの縛りがあるのが実情です。とはいうものの、沢山の方々に喜んでいただき、子どもたちが目を輝かせて喜んでいる姿を見させていただいておりますので、今年度も大きなイベントを開催できるよう努めてまいります。イベントに関しても私たちスタッフの思いだけではなく、実際にお越しいただいているお客様の意見も反映しながら企画していきたいと思っております。

サッカー教室に関しては、おかげ様で小学生年代を中心に数多くのお声を頂戴できるところまでできました。中高生年代に関しては、サッカー関係者との関係は構築できているものと思っております。しかし、課題も大きく見えて参りました。サッカー教室＝集客に結びついていない。イベント＝グルージャファンの構築につながっていない等がございます。イベントが開催できたことで満足する時期はもう過ぎていると思っておりますので、今後に関しては、集客につなげるイベント、グルージャファンを構築できるイベントをさらに企画をしていきたいと思っております。岩手県サッカー協会、岩手県教育委員会、盛岡市サッカー協会等の関係団体の方々と話を進めていきたいと思っております。多少の山はあるかと思いますが、平均観客数二千人を目標に頑張っております。Jリーグの方も一緒になって解決方法を見出していこうということで、今後会議をすることも決まっておりますので、ぜひ皆様のお力もお借りしながら、まずは平均観客数二千人を目指した中でのイベントをいう形を考えていければと思っております。

●PR 活動について・ホームゲームの開催告知について（ビラ配り）

【高橋取締役】

観客数を上げていく上で一番頑張らなければいけない部分と思っております。

数年来の課題として、PR 活動や開催告知の遅さ・弱さを痛感しております。そこで、昨年もたくさんお力を頂戴した、イオンモール盛岡様、盛岡駅周辺等、たくさんの人々の集まる場所へ



スタッフ・選手がどんどん出向き、試合開催告知のPRを行ってまいりたいと思っております。メディアを通じた活動にも力を注いでいきたいと思っております。CM、情報番組への選手出演等を充実していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。ピラ配りに関してですが、フロントスタッフにて盛岡駅前等で実施しましたが、やはり選手の力が一番大きいと思っております。まずは、試合があるという告知を強めていきたいと思っております。

イオンモール盛岡様に関しましては、企業理念として地域密着型のお店にしたいということ掲げておりますので、グルージャ盛岡と相通ずるものがあるということで数年来お世話になっております。さらにイオンモール盛岡様と合同のイベント等にも力を入れていきます。盛岡駅周辺に関してですが、新幹線等で旅行客が降り立った時にどこかにグルージャ盛岡のチームカラーがないのはどうしても寂しいというお声も頂戴しておりましたので、ポスターを掲示させていただき、タペストリーを掲示していくといった部分を一つ一つ実現していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●スタジアムの雰囲気作りについて・ホームゲームでスタジアムの観客が一体となり、歌う時間を設けないのか

【高橋取締役】

只今営業活動に力を入れておりますが、スタジアムをグルージャカラーに染めようということで営業部は活動しております。詳しいことはお話できませんが、スタジアムを白と赤に染めていきワクワク感、ドキドキ感を作り上げていきたいと思っております。

ゴール裏のサポーターの方々には、試合前に大きな声で入場曲を歌っていただいております。しかし、私たちフロントスタッフの力不足によりスタジアムに来ていただいているお客様全員に浸透させていけない現状がございます。ここからはご相談並びにご教示をいただきながら、今シーズンはスタジアムが一体となり、声を張り上げ選手を鼓舞し、勝利を掴み取るために入場曲を全員で歌うということの一つの目標に掲げさせていただきたいと思っております。今後、直接ご意見を頂戴しながら進めていきたいと思っております。

●SS指定席について・夢パスについて・オーセンティックユニの販売をレプリカユニにできませんか・2018ユニフォームは、J3開幕戦には間に合うのでしょうか。

【高橋取締役】

SS指定席に関してですが、一昨年にJリーグの方々からのアドバイス・ご提案を頂き、昨年度初めてSS指定席を作らせていただきました。しかし、思ったより購買数が増えませんでした。購入した方々からもシーズン中も直接ご意見を頂戴し、改善しております。2018シーズンに関しては、座席数は多少縮小し販売していきたいと思っております。座席数は65席を予定しております。今回は、SS指定席ではなく、SS自由席という形で販売していきます。発売時期に関しては、遅くとも1月20日の新体制発表会を予定しており、準備でき次第早まる可能性もございます。2018シーズンはクラブを応援していただける方々を増やしていきたいという思いがあり、シーズンパス単体での販売はなく、ファンクラブとシーズンパスがセットとなつての販売となります。



夢パスについてご説明致します。岩手県という土地柄、非常に面積が広いということもありまして、なかなか盛岡に試合を見に来ようといったなかで、お子様だけではなかなか来られない、お金・時間がかかるということで、私たちの方としましては、各企業様にご理解をいただきながら、お子様のチケット代をご購入いただきまして、福利厚生・地域貢献ということでお力をお貸しいただき、進めた企画になります。おかげ様で約 2,000 名の子どもたちをご招待することができました。しかし、大きな課題として上がったのは、いくらバスで招待するとはいえ、100km 先にお子様だけで行かせるというのは親御さんは不安だとお伺いしました。親が行けないのであれば子どもだけでは参加できないというお声も頂戴しましたので、2018 年に関しては、夢パスと夢シートという二つの枠を設けて、営業活動をさせていただいております。夢シートに関しては、小学生だけに限らず、中高校生も含め、招待していくという形に変えていきたいと思っております。夢パス、夢シートに関しては、親子でご招待という形で各企業様に営業活動、ご提案をさせていただいております。詳しいことは申し上げられませんが、非常にご理解いただいております、昨年以上にご協賛企業様が増えております。しっかり成果としてあげられることが平均観客数二千人を乗り越えられる一つの要素になると思っております。

今年は、オーセンティックユニフォームの販売はございません。今年は、レプリカユニフォームを作成しております。納品は J3 開幕戦に向けて進めております。大変申し訳ございませんが、J3 開幕戦に関しては、限定販売の可能性もありますので、ご理解いただければと思います。こちらに関しては、クラブで発信していきたいと思っております。もう一つ変わる点として、2nd ユニフォームの販売は決まっております。

■事前質問への回答 (TOP チーム・アカデミー関連)

●選手補強について

【中村取締役】

2017 シーズンは、当初 24 名という形で進めて参りました。夏のウィンドーで、差波とヤン・ファンの 2 名を補強しました。皆様ご存知の通り、J3 の補強・強化は実際に J1、J2 の選手、エージェント含めていろいろ話を進めながら、12 月の後半、1 月の中旬に決まっています。ざくばらんにお話させていただきますが、私どもの方で契約満了ではなく契約更新を通知した選手が移籍をするという形が今年は多くなりました。私たちの今の環境より、他のチームのほうが環境、評価というところに関して、選手を私どものところでは留められないというのが今、問題となっております。こちらに関しては、私一人の力不足という部分もありますが、チーム・クラブとして、今後抱えていかなければならない課題なのかなと思っております。まず、ボランチのところに関して昨シーズンは、林、益子、垣根、土館の 4 名体制。その後、差波が入り 5 名体制で進めてまいりました。土館は、完全移籍で Y. S. C. C 横浜、垣根は藤枝に完全移籍、林は現役引退というかたちになりました。これは、12 月中の後半に決まったことで、林は 1 月上旬に決まりました。林については一昨年度、昨年度から話をしておりましたが、自分自身の今後のキャリアを含めていろいろ考えながらではありましたが、本人の意見を尊重いたしました。そこから補強に関してですが、事前に監督と他チームの強化とエージェントと話を



させていただいて、ボランチのところは若く、機動力のある人間を獲得したいという、監督スタッフ陣の思いがありましたので、補強を進めてまいりました。全体的なところに関してもFWで岩淵、谷口。特に谷口堅三は主力として数年間、先頭をきって走っていただきましたし、チームとして宝・財産の選手でした。ただ、先程も言ったように、彼はもっと評価してくれるチーム、環境面、今後のキャリア、じっくり話をしていきましても藤枝の方に籍を置く形となりました。そこからいろいろ話を進めていく中で、完全移籍でなかなか獲得ができない現状、期限付き移籍、育成型という形でお互いにとって確約ができ、計算ができる。しかし、どうしても若い選手だと計算が立てづらいとかたちではあるかと思いますが、ユース年代の動画やその当時の監督、既存のチームの強化・監督・コーチングスタッフの方々と面談・お話をさせていただいた上で獲得した選手なので、チームの強化担当同士で決めたということではなく、弊クラブの監督コーチングスタッフに確認した上で獲得いたしました。温かい目で見てほしいということではありませんが、2017シーズンが形として何もはっきりと残っていない上に積上げてきたものに関しても全て壊れたと思っておりますので、一から立て直すためにも今いる選手、獲得してきた選手とともに進んでまいりたいと思っております。一番は、菊池監督の思い、覚悟、どのようにサッカーをしていくのかということブレずに、やり続けるということが2018シーズンに向けて明確になりましたので、ファン・サポーターの方々も含めて、こういうところができる、こういうところが変わってきているということを目に見えるような形でサッカーを通して提供してできればと思っております。応援していて本当によかったと思ってもらえるようなクラブチームにしていきたいと思っております。そこを監督が先頭を切ってやっていければと思っております。2017シーズンは、どういうサッカーをしたいのか、どういうことを皆様に提供したいのかというのがなかなか見えない一年だったと思っておりますが、そういった中でも、補強した選手、特に沼津から来た三名は、本当に相当な覚悟を持って盛岡に来てくれました。面談を通して、強い覚悟を感じ取ることができました。今の既存の選手にない魂と勝者としてのメンタリティを持っている三名だと思っております。

センターバックに関しても、稲森克尚、田中舜。もともと持っているポテンシャル、覚悟を私どもと相通ずるものもありましたし、それを一年間通じて、岩手の方々に発信できるという思いも強くあります。両サイドバックに関しては、ガンバ大阪から来た嫁阪。もともと皆様の想定は、ボランチとかで使うということがあると思うのですが、私どもの方では、一つのポジションにこだわるということではなく、獲得しています。彼ともいろいろ話をして、左サイドバック、センターバック、ボランチ、いろんなポジションをチャレンジさせたいと思っております。そういった形の中で、今は左サイドバックというところに重点をおきながら、彼を第一候補として進めて獲得できました。右サイドバックに関しては、大阪体育大学から獲得した、太田賢吾。鈴木達也と比較しても遜色がないポテンシャルがあると思っております。ただし、鈴木達也もプライドを持ってポジション争いをやっていって欲しいと思っております。ボランチに関しても先ほどお話したように、益子義浩だけが残留となりました。山田陸、河津良一、江頭一輝、若い力とベテランの力を融合させてコントロールタワーとして心臓部として戦っていきたいと思っております。両サイドに関しては、白石、安楽、谷村、梅内、菅本というところがある程度計算できる選手が残留となりました。そこも強固としてやっていきたいと思っております。



す。一番力を入れたのは、FWのところですか。基本的に昨シーズンも攻撃的なサッカーといいつつも、点数が多く取れなかった現実もあります。守備も徹底しなければいけないところではあるのですが、私たちのところでどうしても谷口堅三という人間に頼っていたという部分も多々あります。そこを脅かすような選手、そこに割って出れるようなポテンシャルを持った選手を獲得にいきました。いわき FC から高柳昂平を獲得できました。あとは、東海大サッカーリーグ得点王の谷口海斗。昨日リリースになりました藤沼拓夢。藤沼は昨年、大宮アルディージャから栃木 SC に夏のウィンドーで育成型期限付き移籍というかたちで加入しました。グルージャ盛岡と栃木 SC の試合にも出場しておりましたし、移籍後の点数は1点しか取れなかったのですが、この選手をぜひ獲得したいと、半年以上時間をかけて、ようやく最後のピースとして獲得することができました。あとは、夏くらいから獲得を目指し、湘南と人脈がある宮野が間に入りながら、宮市を獲得しました。ただ彼は手術をした後ですので、リハビリしキャンプ中に復帰予定です。彼の持っているポテンシャルを含めて、私たちのサッカーに適合するものと信じています。もっとパワーアップして、先頭に立ってやって欲しいという気持ちもありましたので獲得しました。誰が出てもおかしくないFWの陣容となっております。そういった中で、今実際に決まっているのは26名ですが、シーズン終了までに28名体制で行きたいと思っております。残りの2名に関しては、日本人なのか外国人枠なのかということに関しては、はっきりしたことはいえませんが、補強は進めております。陣容に対しても人数に対しても、もともと持っている選手たちの技量に関しても今までで一番時間をかけてやっております。

昨シーズンは戦っている姿勢が見えない、がむしゃらさが見えない、最後まで走っている姿が見られない等、当たり前をしっかりと出来る選手たちで構成していきたいと思っておりますので、そういうところをまず始動日の MTG から一年間かけて継続させてやっていきます。あとは、プロである以上結果にこだわらないといけないと思いますので、昨年、一昨年以上の成果をあげられる覚悟をしっかりと持って全身全霊で進んでいきたいと思っております。

●アカデミーについて（今季各カテゴリーの昇格状況、2017年度の総括、セカンドチームを考えているかどうか）

【中村取締役】

各カテゴリーの昇格に関しては、ジュニアからジュニアユース、ジュニアユースからユースへと、三分の二以上は昇格いたしました。継続的に強化と積上げの部分を行っていますので、ご報告致します。

2017年度の総括についてですが、私どものスタッフの形態ですが、これもかなり問題となっております。問題というのは、選手と同様に各 J リーグクラブ、J リーグを目指しているチームからのスタッフ陣の引き抜きというのが、クラブの問題として抱えております。実際に今、私どもの方で県外のスカウトを率先して進めていた、武藤 GK コーチが藤枝 MYFC の GK コーチに就任となりました。たくさんある J クラブの中でもここ数年にないことがグルージャでも起きています。あとは、J リーグクラブからの打診が来ているアカデミースタッフも多数います。そこをどうにかして私どもの方で、選手も財産ですけどもスタッフも財産ですので、全精力を注



いで、スタッフ陣への待遇だとか、子どもたちへのアプローチも含めてやっていければと思います。アカデミーのところも結果を残せばスタッフ陣にも目が行く、評価が高くなる。どこのクラブでも当たり前。グルージャでしかできないというところが今のスタッフ陣と共有してきたところなので、そこは努めていきたいと思っています。質問の中でセカンドチームの開設を考えていますか、ということですが、基本的には、特にジュニアユースとユースに関しては、人数的なことを考慮した上で、ジュニアユースはみちのくの北ブロックには籍を置いておりますが、県リーグへの参加も含め毎年視野に入れております。Jリーグのチームだとポラリスリーグ等、試合にコンスタントに出られる環境は整っていますので、トップチームでなかなか試合出場に恵まれない選手たちに対してのアプローチに関しては、違った公式戦やリーグ戦、トレーニングマッチも含めてやっています。そこは前向きに、アカデミーダイレクターとも検討しております。

●昨シーズンのトップチームの成績についてどのように評価しているのか

【中村取締役】

2016 シーズンは神川監督を、2017 シーズンは菊池監督を招聘いたしました。確かに昨シーズンの開幕当初は、2016 シーズンからの積上げのサッカーを目指し、2016 シーズンに残ってもらった選手たちが大半で2017 シーズンを戦いましたが、積上げてきたサッカーをお見せすることができませんでした。そして結果として残っていない。しかし、それがチャレンジした結果のミスなのかチャレンジしてないミスなのか、成績として残ったと思います。それに対して軌道修正というところで、菊池監督の掲げた守備、一人ひとりの守備意識、運動量等を中和しながら進めてきましたが、はっきりとして軌道修正はできなかったと思います。結果として現れていることなので、いくらこういう風になりましたとお話しても結果としてできていない、選手たちに対して伝わっていない、やろうとしていることが分からないというところが、しっかりコントロールできなかったというのは私の責任だと思っています。そこに関して、監督ともシーズン当初から議論をし、何を達成しなければいけないのか、ぶれない部分、原点に戻らなければいけないところ、そういうところを2018 シーズンは一つ一つ、クリアしていきたいと思っています。2017 シーズンがグルージャにとって、残念という表現ではなく地獄に落とされたような感情だと思います。その感情を絶対に忘れない。失敗を二度と繰り返さないために、今のスタッフ陣でも本当の意味での覚悟というのはたぶん簡単だと思いますが、目に見える覚悟というものを全面に出し、トレーニング、キャンプ、ミーティングから一人ひとりと向き合いたいと思っています。評価という部分に関しては皆さまと同様に悔しく、厳しく、何も残らなかった。それをどう活かし、クリアしていくかが、始動日に向けて全スタッフと毎日ミーティングし、一つ一つクリアして、選手に落とし込みます。菊池監督の思い、考えていること、培ってきたもの、それをもっとハイスピードで理解していく。今シーズンは「監督として初めてだから」というのも通じないと思いますので、覚悟も持ってやっていきたいなと思っています。2018 シーズンは選手・スタッフ陣の思い・覚悟が皆さまに届けられるようにしていきたいと思っています。



●けが人の続出について、改善策について

【中村取締役】

一昨年も昨年もそうでしたが、けが人が多く出ました。はっきりとした原因がわかりません。私どもの方で一昨年、けが人が多かった時に、もともとトレーニングをしている「つなぎ多目的運動場」の人工芝の問題なのか練習の質の問題なのか、全て検証している中で、今関がアキレス腱を断裂しました。芝に足を取られた状態で断裂した。私も目の前で見ていました。他の選手、安楽に関しても手術をしたのにも関わらず、一年間プレーができなかったことに関して、メディカル部門と議論し、リハビリのメニュー、アプローチの仕方、色んな部分をやってきました。改善しなければいけない一つとして、自分たちのメディカル部門だけを頼らず、セカンドオピニオンを活用していく。他チームのメディカル部門に見ていただく、スポーツドクターに見ていただく、権威のある方々に見ていただくなどを取り入れ、シーズン半ばから取り組んできました。今まで私たちが選手に対してのアプローチ、「もっとこうしなければいけないだよ、もっとこういうのが必要なんだよ」というところをトレーナーとメディカル部門もすごく勉強させていただきました。それは、いろいろなご協力を賜りながら、いろいろな方々に対してアプローチをさせていただきまし、ご教示もいただきましたので、2018 シーズンもそれを継続していきたい。その一環としてまずは怪我をしない体づくり、体の使い方を学ぶ上で、キャンプ地でもある、いわき FC 様の施設を使いながら強化をしていきたいと思っております。いわきベースには、ホスピタリティの部分、メディカル部門も Jリーグ以上のスタッフで構成されており、筋トレルームの器具、マシン、それに対するサプリメント。私たちよりも二歩も三歩も前に進んでいます。そういった環境の中、体づくり、知識の変革、シーズンを通してのパワーアップなど、すべてを変えていきたい。そのためにいわき FC 様にご協力賜り、いわきベースで固定しながら、一年間戦える体とメンタルを鍛えていきたいと思っております。

●菊池監督が掲げるサッカーとはどのようなものですか。そういった言葉をテレビ新聞あらゆる場所で発信してはどうか。

【中村取締役】

こちらに関しては、発信していきます。発信をしていくことによって、いろいろな方がグルージャとしてどのようなサッカーを目指しているのか、どういうサッカーをこれから続けていかなければいけないのか、あとは菊池監督が掲げているサッカー、よくいわれるのですが、「全員攻撃・全員守備」という表現というのは当たり前のもです。ただそれを紐解いていく中で、体づくり、ひとりひとりのメンタリティ、考え方を変えていくということがベースとなっていきます。菊池監督が考えているのは、まず限界値をしっかりと超えていこう、昨日より明日というような形で、日々のトレーニングから変えていこうというところがまず一つ。あとは、いちばん大切な「役割と挑戦」という表現があります。これは、彼が一番大事にしている言葉で、その役割。例えば試合に出ている時、今の自分で満足するのか、もっとパワーアップしたいと思ってるのか、自分の置かれている状況、立ち位置を含めて、今何をしなければいけないのかというのを優先的に考える人間を育成していきたいということがあります。それに対して挑戦し続けなければならない、これは大事なことでもありますし、一年間継続していかなければ



いけないところだと思います。コンセプトとして彼が掲げているのは、この二つです。

もう一つはサッカーに対してと言うのは、3つあります。まずは、質です。まずは守備ですが、プレスの仕方の質、アプローチの質、ランニングの質、判断・選択肢の考える質を上げていきましょうという形があります。私は質と量は比例していると思っているので、走る質と量を上げていきましょうと。あとは、判断する、見る、スピード、量をもっと多くしていきましょうということ。ゴール裏の方々も多くいらっしゃり、お気付きかと思いますが、私たちのチームというのは2016年、2017年とピッチの中でコーチングをしている選手というのがとても少ない。闘将ではないのですが、福田友也がば一っとしゃべっている、点数を取られたくないという気持ちを出しているだけかもしれないのですが、例えばボランチの選手、若いからしゃべれないのか、そういうことではなく、それをやらないと試合に出られないというのを学ばなければいけないですし、監督が思っている考えている・進めていきたいサッカーをまず日々のトレーニングで自分の体に入れて、頭で取り入れた上でピッチに立たなければいけない。それができない。とある選手は、ただただ自由奔放にサッカーをやっている。学ばなければいけないところは彼も少しずつ学んでいます、まだ一皮も二皮もむけきれていない。自分のやりたいサッカーだけを追求するのではなく、グルージャが勝つために何をしなければいけないのかということを考えられる人間だけでサッカーをしたいというのが私と監督が相通じたところです。理にかなわない選手を除外するというのではなく、一人ひとりの一日一日を大切にしていきたいという思いがあります。その部分の質と量を司る精神的強さや負けている時、勝たなければいけない時、引き分けの時、試合に出られない時、怪我をしている時など、自分の立ち位置、役割をひとりひとり理解し、学ばなければいけないですし、それを皆様の方に形あるものとして提供できればと思っております。キャプテンだけがキャプテンシーを発揮すればいいということだけではなく、一人ひとりがリーダーとしての自覚を養ってもらいたいということも全選手・全スタッフにも話していますので、それを一年間通じて継続して挑戦していきたいと思っております。

■クラブからのご提案

【高橋取締役】

ここからクラブとして、ご提案とご理解いただきたい部分、ご相談という形になります。大きく分けて3つございます。

一つ目は、2018シーズンのホームゲームの応援席の入れ替えをしたいと思っております。現在、北側がホーム、南側がアウェイとなっておりますが、こちらを入れ替えたいと思っております。理由といたしましては、スコアボードがある関係で南側の方がより声が逃げていかないという大きな利点があります。北側というのは、どうしても競技場は無風で試合をやったことがないのではないかとはいくらか風が強いので、どんなに大きな声を出しても声が逃げてしまうということがあります。南側は、スコアボードがありますので、そちらのほうで声が反響しスタジアムに届く、選手の背中を押してくれるということもあります。そういった部分が一つの理由となっております。



あともう一つ、昨年度から DAZN 様のおかげで全試合生中継となりましたが、いつもゴール裏の皆さまの後ろにやぐらが建ってしまう。これが一番の問題です。あそこは通路も兼ねていまして、正直「何かあった場合、地震があった場合等、避難導線どうなっているんですか」と J リーグの方からも問題視されています。そういったなかで北側で今の状況でゴール裏の方々が立って応援しているというのは大変危険ですので、皆さまにはご報告という形になりますけれども、今シーズンより北と南を入れ替えさせて頂く。だからと言ってアウェーの応援でいらっしゃったお客様なら危険に晒されていいのかということではなく、ゴール裏の応援席での観戦される方の人数を考慮したなかでの入れ替えとなります。この入れ替えにより、メインスタンドの方もいつもと場所が入れ替わります。今後、シーズンパスのご案内が届く方もいらっしゃるかと思いますが、そういった場合にもしっかりした文面でご説明となっているかと思しますので、ご理解頂ければと思います。

それに伴いまして、二つ目は、グルージャマルシェの場所です。ずっと数年来南側で行って来て、昨年北に移しました。こちらも本当にいろんな意見を頂戴した中で、一度まずはやってみようというなかで、北に変えました。その際に入場ゲートから入ったお客様が溜まっている現状がある、非常に雰囲気がいいというプラスの面もたくさんありましたけど、消防法の問題であったり、風の問題、何件かクレームを出店者の方から直接頂きました。今後観客を増やすというのも私たちとしてもマストとなっております。その際に、出店数を増やすとなった場合に、北側ですと対応が難しく、もう一度ご理解をいただき、南側にマルシェの場所を移動させていただきたいと思っておりました。これもご報告です。ぜひご理解いただければと思います。

三つ目は、ご相談という形になります。クラブ名の変更についてです。先ほどもお話をさせていただいた通り、「岩手に元気を」、「子どもたちに夢を」を作り上げていく上で、ホームタウンを拡大させていただきました。岩手を全県に巻き込んだクラブになっていきたいという思いが強くあります。そういった中で、J リーグの規定、理事会、実行委員会等すべての審査をしなければいけません。最短で 2019 シーズンより「グルージャ盛岡」という名称を「いわてグルージャ盛岡」に変更したいと考えております。岩手という部分は、ひらがなを考えております。ご理解いただければと思います。こちらクラブのみで考えていく部分ではないと思っておりますので、こういったかたちでサポーターズカンファレンスもシーズン中も行わせていただきたいと思っていましたので、そのなかで進捗情報をご報告しながら、進めさせていただければと思っております。

この件につきましては、「コンサドーレ札幌」が「北海道コンサドーレ札幌」に、「ザスパ草津」が「ザスパクサツ群馬」、「ジェフユナイテッド市原・千葉」が「ジェフユナイテッド千葉」等がございます。J リーグに入った当初より営業活動において、「県名と県庁所在地の名称が違うクラブは苦勞をするよ」というお話をいただいております。実際に、県内を回らせていただいている中で、「盛岡のチームでしょ」、「伊達藩・南部藩」というお話も頂戴いたしました。そういったことからホームタウンを広げたタイミングとしてもクラブ名を変更したいと考えております。ここではご提案・ご相談という形になりますので、ご理解いただいた上で進めさせ



ていただければと思っておりましたので、よろしくお願いいたします。

これにともないクラブエンブレムに関してですが、クラブの歴史そのものですので、慎重に検討していきたいと思っております。当然、応援していただける方々があつてのクラブでありますので、皆様に失礼のないような形で進めてまいりたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

■質疑応答

●2018 レプリカユニフォームの価格について。2017 オーセンユニフォームになぜJリーグマークが入らなかったのか。あのクオリティであの価格は納得できない。

【高橋取締役】

2018 レプリカユニフォームの価格は、もう少しお時間頂戴できればと思います。

アンダーアーマー様との契約の取り決めがありまして、スポンサーを入れるという部分も難しいまま進んでしまいました。ただ、今シーズンはその点も見直しということで、レプリカユニフォームにもJリーグマーク及びスポンサーもついた状態でお渡しとなりますので、ご理解いただければと思います。

●宮野前常務が去年はお話を頂いていたんですが、クラブの黒字化はいろいろ難しい部分があるので、それを最低限成功するために、具体的にお話していたと思います。グルージャスタイルを確立させるというお話があったり、この先のシナリオや数字的な話が明確に出ていた。今回参加した中で、数字的な話が出ていなく非常に残念。この先の中長期的なところで明確な方針は今後出される予定はないのか。

【菊池社長】

まず、黒字化の部分ですが、2017年度の決算については、当月で締めますのである程度は見えてきているというところでは、決算前なので具体的な数字は控えさせていただいたというのが正直なところでは、実質、黒字の見込というところはお伝えさせていただきます。今後については、2017年の場合は秋田がJ3で優勝したので、J2のライセンスについてもスタジアムの要件が必要だということについて、広く皆さまに知って頂く機会になったと思っております。今後、岩手・盛岡でもその機運を高めていくというきっかけになったと思っておりますので、スタジアム建設についての行政への働き掛けも含めて、J2に上がれる形を整えていくうえで、署名活動等も含めた活動を開始していくという年にしたいと思っております。スタジアムの要件もそうですが、それ以外の部分についてもJ2で戦えるような経営基盤。それと選手強化も合わせて進めていき、成績を上げて、スタジアムも建設の目処を立て、総合的に進めていかなければいけないと思います。クラブの経営基盤と選手強化、成績の向上、スタジアムの建設、それらを皆さまにご協力いただき、2022年を目処に体制を作っていきたいと思っております。



【高橋取締役】

スタジアムのところですが、天皇杯の2回戦で浦和レッズ様と試合をさせて頂きました。2回戦になったらカテゴリーが下のチームのホームスタジアムでやりましょうという話が出ております。となりますと、去年ですと浦和レッズがいわぎんスタジアムにくるということとなります。それで観客を増やそう、地域を盛り上げようということで日本サッカー協会が動いておりますが、そこで一つ問題があるのは平日の水曜日のナイターでやってくださいという話になっている。となると岩手の場合、天皇杯で勝ってもやる場所がないじゃないという話になります。社長からお話した部分もありますけども、まず本当にナイターがないと天皇杯はどうしたらいいんですかという話になってしまう。ナイターという部分は、市の方にも見積もりを作って頂き、数字で進めております。頑張っておりますではなく、中期長期計画をしっかりと皆さまにお伝えし、ご協力をお願いする形で進めていきたいと思っております。

●選手のプロ契約を踏まえた上の、健全化なのか。会場のホスピタリティについて。設備面も今のままでの黒字化なのか。こういったことを将来的に加味した上での健全化・黒字化なのか。

【中村取締役】

2016年の不祥事があってから経営をどうやって立て直していかなければいけないかという舵取りを宮野氏含め、高橋、私、菊池社長で色々話し合いながらやってきました。私たちもやったことがないからだけでは済まない。今までもそうですが、私と高橋がこれからどうやって黒字化を目指すために何が必要なのか。もともとグルージャの中にいた人間なので、上の人だけの決定だとか。ひるがえす、掲げなければいけない、フロントの中にいてなかなか進めなかったこととか風通しが良くなかったこととか、私と高橋が一番感じていたところです。黒字化が当たり前前のクラブ、当たり前のように全員がプロ契約選手になって、二部練習をして、クラブハウスが建って、アカデミーがそこで潤いながらトップチームの練習を見て、日々練習を観覧してくださっている方々がいる中で、チームが当たり前前のところでどうやって行くかというのが中期長期という段階になっていくのかと思います。現在は、全員プロ契約ではありません。そういった中で選手たちの思いや熱い感情。私はそれだけしかない人間なので、その岩手でサッカーをしてもらう思い、そういったところで選手たちに話をしています。ただ、思いだけで生活はできません。だから、経営陣、取締役の中に入ることによって、今これが必要、削ることが優先なのか、もっと違った意味での営業活動なのかホームタウン活動なのか、こうやっていろいろな方からご意見を頂戴しながら、できることはコツコツ協力を。色んな人達を巻き込むパワーを私たちが養わなきゃいけないのかなど。例えば、グルージャの良さを私たちが話せなければ賛同する方々も少ないでしょうし、少なくなるでしょう。なおかつそれに対して尽力されてきた取締役、理事の方も見てきましたので、そういう人たちの思いをどうやって具現化しながら、中期長期計画を立てたならばそれに対しての立証と検証は必要だと思います。これはうまくいってません、これはうまくいってますというところを明確にしていくのが私たちの責務だと思っています。一番被害を被るのは選手です。住居のところ、アルバイトしながらやっている、でもそれが当たり前でやっていくしかないんだと思う時代ではもうなくなってき



ているのは事実です。取り残されているのは今のグルージャ盛岡であることは明確なので、私もそうですが役員の一一人ひとり危機感をもちながら、選手たちの今置かれている状況を少しでもよくするために、やっぱりお金がないと先に進む壁が出てきてしまうので、それをどうやって作って、どうやって黒字を当たり前にしていくかという所を常に考えながら、そしてパフォーマンスを上げていく、選手たちがよりよい環境になっていくようなところに私は力を注いでいきたいと思っております。特に常勤の三人と宮野氏が関わりながら進めていきます。

お金がないからだめですよということではありません。選手に関しては強化予算というものがあるなかでやりくりしています。その強化予算のまま行くのか、赤字を出さないために経営をしているのかということではないと思う。赤字にしたくないから経営する人間なんていないので、もっと潤って、このチームが岩手のために必要とされるために高く目標を持って、それを実現するために人が動いて、協力してくれる人たちを巻き込みながら進めていかなければいけないと思います。例えば雨に濡れている、お金がないから屋根がない。それはたぶん行政の力なのか、私たちがもっとアプローチしていかなければいけないのかということにもなります。ボランティアスタッフを始めとした方々に、ご意見を頂戴し、目に見える形でより明確にしていきたいと思っております。

●クロステラスのイベントについて。グルージャから持ちかけたのか、クロステラスからなのか。ホームタウンである盛岡にグルージャカラーを出してほしい。イオンモール盛岡だけでなく、他の商業施設、商店街も含めて色を出していければと思う。

【高橋取締役】

昨年から三田商店様とスポンサー契約をさせていただきまして、キッズルができたということもありますけども、三田商店様の方から応援して頂く形が少しずつですけどもできてきたと思っております。三田商店様からお声を頂戴したということでもありますけども、キッズルという大きな商品価値ができましたので、今後そういった形でメディア、皆様の集まる場所へ出ていきたいと思っております。

フェザン、川徳、モスビル、クロステラスの4つの商業施設で手を組もうとしております。私たちのスポーツの力を必要としていただいておりますし、スポンサーをいただいている企業様でもありますので、今シーズンは今ここでやりますというお話はできませんが、今頂いたご意見を見える形でやらせていただきたいと思いますと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●昨年は黒字化に向けてフロント陣が本当に頑張ってくれたと思っております。昨年、宮野前常務が雑誌のインタビューで語っていた、いわてアスリートクラブをドリームジョブにするというような記事を読みました。岩手の上場企業に並ぶような、優秀な人材が集まるような企業にしていきたいというような内容だったと記憶しています。たくさんやらなければいけないということもあると思いますし、なかなか大変な状況だと思うのですが、現場が安心して、サッカーに集中してもらうためにも強固な経営基盤を作っていただきたい。選手の待遇を改善するのは当然なんですけど、それと並行して、フロントスタッフの待遇、教育、やりがいも含めてそこを構築してもらえればと思います。フロントの方が生き生きとしてホームゲーム等、運営し



てもらえれば、来てくれる人にも必ず伝わると思います。選手もそうですが、フロントの待遇面も含めて、体制の構築・改善を進めてもらえればと思います。ぜひ頑張ってください。

●ご提案なのですが、2017 シーズンから始めた SS 指定席についてです。座席の幅も然りですが、いわぎんスタジアムは行政のものでもあるので変えられない部分はあると思います。であれば、もっと他のアプローチで、せっかく SS 指定席を買っていただいた方にプレミアム感を提供できれば。キズールと同じ座布団を用意する、ブランケットを無料貸出等、プレミアム感を出してはいかがかなと。みなさんにとって、ダービーは何でしょうか。ここで答えを求めようとは思っていません。ピッチの中で、あるいはスタジアムの中で答えを出していただければと思います。

【高橋取締役】

SS 指定席のプレミアム感は、検討しております。お客様からのご意見を頂戴しておりましたし、フロントスタッフからも意見は出ておりました。まだはっきりとしたことは申し上げられませんが、今頂いた意見も頂戴しながら。私たちとしては、A 席から S 席、S 席から SS 席とどんどん上がっていただくことによって、収入が上がる、環境が変わる、いろいろなものが変わっていくと思いますので、その流れを作れるように改善をしていく。もう少しお時間をいただければと思います。一年間を通した部分ですが、やはりホームゲーム。当然トップチームとしては全勝を目指してスタートすると思います。ただ、負ける時というのは試合をやる以上あります。負け方が非常に大事なかなと思っております。全勝できるチームというのは世界でバルセロナかレアルくらいしかありませんので、その他のチームは必ず負けますので、その時の負け方ですね。どれくらい負け方に納得してもらえるのが次の試合への集客等に繋がると信じております。今シーズンは選手の振る舞い、ベンチに入れなかった選手に関してスタンドで見ている選手を皆様も見ていると思います。試合中に携帯をいじっている、試合をちゃんと見ていない等、そういった部分を目にした場合には、私であり、中村取締役、菊池社長までお声がけいただければ、そういった部分も含め皆様と一つ一つ改善して、クラブとして一岩となり進んでいきたいと思っております。本当に、皆様のお力がこのクラブの支えになっておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

以上